まちの話題 FOCUS

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
市民協働課（☎227－6056）

おいしい笑顔で送り出し

1の1NONOICHI　門出のコラボディナー

飲食業の開業を目指す人が「給食当番」として、日替わりで食事を提供している1の1NONOICHIシェアキッチン。給食当番として腕をふるっていた3組が、自分の店を開業するにあたりここから卒業することになりました。そこで1月18日㈯に卒業セレモニーを兼ねたコラボディナーを開催、3組の門出を祝いました。和食、肉料理、カレーと違うジャンルの3組が提供する料理は、これまでの集大成とこれからへの意欲が溢れる品ばかり。約40人の参加者は、次々と出される料理に感嘆の声をあげながら食事を楽しんでいました。卒業者の一人は、「ここで学んだことを自分の店でも生かして、みんなから愛される店を目指していきたい」と意気込みを語りました。

①参加者と卒業者3組で集合写真②丹精込められた特別な料理③調理場の様子④おいしい料理にこぼれる笑顔⑤ブリをわら焼き調理

多様な性が生きるまちづくり

男女共同参画推進講座

多様性を大切にし、全ての人が暮らしやすい社会を考えました。

SOGIE（ソジー：性的指向、性自認、性表現）にかかわらず生きやすいまちとはどんなまちかを考える講座が2月15日㈯に開催され、31人が参加しました。金沢大学准教授の岩本健良氏を招き、前半はSOGIEの基礎知識や性的マイノリティが抱える困難を学びました。後半はLGBTsから相談を受けた場合を想定し、解決に向けてどのように働きかけるかを話し合うグループワークを実施。参加者は、「当事者の気持ちが一番大切。気持ちに寄り添った対応を」と話していました。

地元の根菜で地域を活性化

ヤーコンコンポート作り

2月11日㈫･祝日、翠星高校の食品科学研究会から野々市食菜加工グループ『こんさい』のメンバーが、ヤーコンジャムの製品化に向けたコンポート作りを学びました。このグループは、市の特産野菜を活用して地域を元気にしたいという思いから新しく結成された団体で、地採れのヤーコンやアピオス、からし菜の加工販売に取り組みます。翠星高校が開発した秘伝の製法を学んだグループ代表の北川さんは「皆さんに健康をお届けしたい」とこれからの意気込みを語りました。

グループが作るヤーコンジャムは、椿まつりで販売予定です！

のっティも皆といっしょにクイズに参加したよ

もしも税金がなかったら…

館野小学校　租税教室

館野小学校の学校公開が行われた2月4日㈫にあわせ、市税務課が6年生2クラスを対象に5限目の社会科の授業で租税教室を実施しました。税金を知るという固いテーマでしたが、途中のっティの登場や税金にまつわるクイズもあって、児童らは楽しそうに学べているようでした。児童からは「税金で買われた学校の備品を大切に使いたい」や「最初税金はいらないと思ったけど、必要なことが分かった」などの感想が聞かれ、税金を知り学ぶとても有意義な時間となりました。

塩分控えて 高血圧を撃退！

食生活改善推進員が動画を作成

健康的な食生活について、学習と普及活動を行っている食生活改善推進協議会が、血圧と塩分について楽しく知ることができる動画を作成しました。「にわかのっティ劇団」となった会員3人による会話形式の寸劇で、高血圧を防ぐ減塩のポイントを紹介しています。紹介されるポイントは日常で実践できるようなものばかりで、表現もわかりやすく工夫が重ねられたものです。食生活改善推進協議会会長の齋藤さんは「血圧が気になる人はぜひ見てくださいね」と話していました。

写真右下の二次元バーコードから動画をチェック！

創業に関心のある人を中心に市内外から約50人が参加しました。

夢をカタチに

創業セミナーの開催

2月1日㈯、にぎわいの里ののいち カミーノで創業セミナーを開催しました。自分らしい働き方の一つとしての「創業」を提案し、将来の創業に向けた意識を高めることを目的とするこのセミナー。「おまかせする経営」と題したおまめ舎代表の久木誠彦氏による講演や、先輩創業者に質問などをするグループ交流会を行い、創業の経験談やアドバイスをもらっていました。参加者も積極的に発言するなど活発な雰囲気が伺え、とても充実したセミナーとなりました。

避難所運営に挑む！

野々市市防災士会第2回研修会

情報交流館カメリアで2月13日㈭、市防災士会の令和元年度第2回目の研修会が行われ約50人の防災士が参加しました。研修のメインは、Hinanzyo Unei Gameの頭文字を取ったＨＵＧ（ハグ）と呼ばれる架空の避難所を運営するゲーム。避難所に次々とやってくるさまざまな事情を抱えた避難者や、突然起こる出来事に参加者らは議論しながら対応を考えていました。講師を務めた県防災士会副理事長の大月氏は「円滑な避難所運営には事前に考えることが大切」と話しました。

白熱した話し合いがいつまでも続きました。